

「ここだけの話」

作…高橋いさを

【登場人物】

高倉健作…佐藤大地

神山明日香…丸山奈緒

ボーイ…

Bits
1 A

舞台はピカレスク・ホテルの一室

ある春の日の午後

鞆を持ったボーイに連れられて、ネソ姿の男（高倉健作）が部屋に入ってきて来る。

ボーイ（鞆を置いて）こちらでよろしいですか？

高倉 ああ、どうもありがとうございます。

ボーイ こちらがトイレとバスルーム、その向こうが寝室になっております。

高倉 ああ、わかってる。

ボーイ

高倉 前に一度泊まったことがあから。

ボーイ そうですか。毎度ありがとうございます。

高倉（窓辺に立って）変わらないなね、ここは。

ボーイ はあ。

高倉（外を見ている）

ボーイ あの、お客様。

高倉 うん？

ボーイ キーでございます。（と部屋の鍵を渡す）

高倉 ああ、どうも。（受け取る）

ボーイ 何かご用がございましたら、フロントまでご連絡ください。

高倉——ああ、どうもご苦労様。

ポ——イ、去る。

Bits
2

高倉、懐かしそうに部屋を見回す。

電話、ソファ、鏡、バー……どこもあの時のままだ。

高倉、三年前のあの日を思い出し、ちよつと憂いの表情。

ソファに座り、腕時計を見る。

ふと左手の薬指に嵌められた結婚指輪に気づく。

それを外そうとする。が、指が太ったのか外れない。

と、ドアの外から声が聞こえる。

声(女) あなたッ、何ボケッとしてるんの！ そっち行ったわッ。

声(男) 明日香ッ！ 明日香ッ！

高倉 ……？

と、ウエディング・ドレスを着た女が息を切って部屋に飛

び込んで来る。女、ドアを閉める。

女、ホッと一息。

そして、はじめて部屋のなかを振り返り、男に気づく。

高倉 ……。

明日香 すいません、突然。すぐにアレしますから、少しだけ、

少しの間だけここに置いて下さいッ。

明日香、そつとドアを開けて外を見る。

見つかってはまずい人間が外にいるのか、そつとドアを閉める。

明田香 (高倉の方に振り返って) すいません、水一杯くれますか。

高倉 えっ

明田香 水。

高倉 水……。

明田香 ええ。

高倉 あなた、いったい……。

明田香 見ての通りのモンです。怪しいモンじゃありませんから。

高倉、ポットを取り、コップに水を注ぐ。

高倉 花嫁さん、だよね？

明田香 一応。

高倉 結婚式？

明田香 ええ。

高倉 このホテルで？

明田香 予定では一時間後に……。

高倉 そり。(コップを差し出す)

明田香 ども。(飲む)

高倉 ……。

明田香 お一人ですか？

高倉 え？

明田香 他にどなたか？

高倉 いや、僕一人だけ。

明田香 よかった。(明田香、水を飲み干し)ごちそうさま。

と、コップを高倉に返す。

高倉 あなたは？

明日香 神山です。神山明日香。こうやまあすか明日に香るって書いて明日香。

高倉 ……そ。で、神山サン。これからこのホテルで式挙げる花嫁さんが、こんなトコで何してるの？

明日香 迷惑だつてことはよくわかってます。でも、あなたがあたしをここにしばらく置いてくれれば、一人の女が不幸な結婚をしなくつてすむんです。

高倉 不幸な結婚……。

明日香 ええ。

高倉 ……つまり。

明日香 そうです、あたしがです。

高倉 ……。

明日香 仕方なかったんです。このまま結婚したつてうまくいくはずないんです。確かに結婚するって決めたのはあたしです。でも、彼ひどいんです。付き合っている時は少しもオクビに出さないで、結婚すると決まったら……。

高倉 ちよつと、ちよつと待って、あなたが何かの事情でその人と結婚したくないと思ったのはわかったよ。あなたがそう思うなら、僕もそれでもいいと思う。

明日香 そう思いますか？

高倉 ああ、気持ちに迷いがあるまま結婚すべきじゃないよ。

明日香 そりですよね。一生を決めることですよのね、ありがとう。

高倉 しかし、それはそれとして、僕にも僕の子定があるんだから。

Bits
2”

明日香 予定？

高倉 ええ。

明日香 どんな？

高倉 なんだっていいでしょう。

明日香 あたしが居ちやまずい予定ですか？

高倉 ええ？ まあ。

明日香 あたしにここから出て行けっっておっしゃるんですか？

高倉 だわてね……。

明日香 今、あたしがこのまま外に放り出されたらどうなるかわかりますか。あの大嘘つきと結婚させられちゃうんですよ。

高倉 大嘘つき？

明日香 ええ、聞いてもらえます。

高倉 いや、他人のもめ事に深入りはしたくないし、何もここにいるこたアないでしょう。

明日香 どこに行けっと言うの？

高倉 隣の部屋じゃダメなの？ 隣に行けば、もつと親身になつて君のまよを考えてくれる人がいるかもしれぬし。

明日香 鍵がかかってました。

高倉 だったらその隣り。

明日香 もし、そこでヤクザが麻薬の取り引きをやってたらどーするんです？ パンチ・パマのオジサンたちにギ中りと睨まれて、あたしし、犯罪の目撃者じゃないですかッ。まよを出て行くと、あたし不幸にならんです。それに、こんな恰好でホテルうろついている女の気持ちわかりますか？

高倉 まー、たぶん生涯わかんないだろうね。

明日香 ここ出てゆくと、あたし不幸になるんです。そんなひどいことあなたはできるんですか？

高倉 できるも何も、言ったら、僕には予定があるって。

明日香 何かあるんですか、これから……

高倉 人が来るの。

明日香 誰が？

高倉 誰だっていいだろ。

明日香 あたし、その人説得してみせます。

高倉 え？

明日香 話せば、その人だってあたしの立場わかってくれると思います。

高倉 ……。

明日香 ほんの一時間です。ほんの一時間ばかりここに置いといてもらえれば、それですべて丸く収まるんです。

高倉 一時間もここにいるつもりなの!?

明日香 たった一時間じゃないですか。それで一人の女が救えるんです。

高倉 あんたね。

明日香 あー。

高倉 ？

明日香、ソファに座り上を向く。

Bits
3

高倉 ……どうしたの？

明日香 ティッシュありますか？

高倉 え？

明日香 ティッシュ・ペーパー。

高倉 何するつもり？

明日香 鼻血。

高倉 ええッ。

高倉、あわててティッシュ・ペーパーを差し出す。

明日香、ティッシュで鼻をおさえる。

明日香　　すいません。ちよっとこれ、脱ぐからあっち向いてくれませんか。

高倉　　え。

明日香　　借り物なんです、これ。

高倉　　ちよちよちよっと！ 脱いじゃダメ！ こんなトコで。

明日香　　裸になるわけじゃないですから。

高倉　　裸になんなくたって……困るよ、そんな。

明日香　　血がついたら大変なんです。

高倉　　それにしたってこじや困るよ。

明日香　　だわて……。

高倉　　あーもうしょうがないなアあっちでやって、あっち寝室だから。

明日香　　どっちですか？

高倉　　あっち！

明日香　　すいません。

明日香、寝室に駆け去る。

高倉、あきれてソファにどっかりと腰を下ろして頭を抱える。

高倉、不安そうに、ドアを開け外をみる。誰もいない。

高倉　　……。

高倉、腕時計を見て溜め息をつく。

高倉、明日香が気になって寝室に行く。

高倉　　ちよっと入るよ。

高倉、寢室に入る。

Bits
4

明日香の声 キャーツ！

高倉の声 あ、いや、そんなつもりじゃさん。

明日香の声 何か用ですか！

高倉の声 何勝手にそんなモン着てるの!?

明日香の声 これしか着るもんじゃないんだからしかたがないでしょう。

高倉の声 だからってね。

明日香の声 出たって下さいッ！

高倉、出て来て、仕方なく電話をかける。

高倉 (小声で) あ、もしもし、フロント？ ちよつと困ったことが起

きちゃってね。今、ここに女が居るのよ。え？ 白いドレスを着

た変な女が……幽霊？ 幽霊じゃないよ！ 生きてるよ。ウエデ

インダ・ドレネを着た。そう、結婚式だよ。ブライダル。お宅

でやってくるブライダル・サロン。え、予約。予約じゃないよ。

いいからボーイよこしてよ。そう703の高倉……早くね、よろ

しく！ (切る)

高倉、腕時計を見て溜め息をつく。

そして、指輪に気づき再び外そうとする、が、外れない。

明日香、バスローブを着て出て来る。

Bits
5

明日香 どうしよう。

高倉 え？

明田香——あたし、何てことしてあんだけあり——

高倉——。

明日香　あたし、衝動的にこんなことしちゃったけど、考えてみたらどんなでもないことしてるんだな——って。

高倉　そうだよ、どんなでもないことしてるよ。僕が花婿の立場だったら舌噛み切って死ぬよ、きつと。

明日香　そんな。

高倉　だってそうだろう。結婚相手がどんなにひどい人か知らないけど、土壇場になって「やめた」はないだろう。

明田香——あんたさっき「迷いがあるまま結婚するのはよくない」って言うたじゃない？——

高倉——それは言葉にアヤ。

明田香——アヤ？

高倉——アヤ。でもさ、結婚するときには誰だって多かれ少なかれ迷いはあるもんでしょ。

明日香　あんた、結婚してますか？

高倉　え、まあ……。

明日香　結婚するとき迷いはありましたか？

高倉　あつたよ。

明田香——どんな？

高倉——どんなってそりゃいいいいあるだけあり。

明田香——いいいいあつて。

高倉——だから、ホントはこの人だよかつたかどりかつてず。

明田香——良かったと思いますか？

高倉——何が？

明日香　結婚して後悔してませんか？

高倉　……。

明日香　後悔してるんですか？

高倉 そんなことあなたに関係ないだろう！

明日香 ……。

高倉 な、ここまで来たんだ。ここはおとなしく結婚しよう。あなたも子供じゃないんだから。

明日香 他人事ひとだと思つていい加減なこと言つて。

高倉 いいか、はつきりいふけどね。

明日香 何よ！

高倉 俺とあんたは他人だよ！

明日香 だからつて、一人の女が不幸になるのをあなたは黙つて見過ごすつて言うんですか？

高倉 決まつた訳じゃないでしょうが、不幸になるつて。

明日香 あなた、あの人のこと知らないからそんなことを言えあんです。

高倉 知らないよ、知らないけども。

明日香 不幸になるに決まつてます。あんなマザコン男と結婚しても……。

Bits 6

高倉 マザコン男や

明日香 あたしあの人の妻になりたいんです。でも、お母さんの代わりなんて……まっぴらよ。

高倉 ……へえ。

明日香 何ですか？

高倉 へえ。マザコンなんだ、彼。

明日香 ええ、何か決めるとなるといちいちお母さんに相談して……。

高倉 でも、そのマザコンと一緒にならうと思つたんだろ。だったら、最後まで面倒みてやりやいいじゃないか。

明日香 そんな言い方しないで下さい。

高倉 だつてそらだろ。そんなに嫌ならなんで今日まで白黒ハッキリさせなかつたの？

明日香 それらしい兆候はあったけど、確証がなかったんです。

高倉 ……。

明日香 あたしたち、知り合って半年なんです。彼が一緒に住んだ方がいい
わいの楽だわあって言うんで、あたし「うん」って答えちゃった
んです……で、お母さんに会ったり話がどんどん進んじゃって……
――。

高倉 だから何ソウ

明日香 だからソ……だから、まだよくわからないトコあつて……。

高倉 (溜め息)

明日香 新しくベッド買うとしたんです、新居の。彼、電話かけて相談す
るんです、母さんに、どんなベッドがいいかって……。

高倉 いいじゃないか、そのくらい。

明日香 なんてあたしたちの新婚生活のベッドのこと、いちいちお母さん
に相談してから買わなきゃいけないんですか？

高倉 お母さんベッドに詳しいかったのかもしれないでしょう。

明日香 一事が万事そうなんです。

高倉 ……。

明日香 彼、一見男らしいんです。髭がびつしり生えてて、だからって
汚いとかそういう感じ全然しなくて、ハンサムで、背が高くて、
大学時代はラクビーやってて……。

高倉 (イライラと) それで？

明日香 にもかかわらずそうなんです。髭のラガーマンが楽しそうにお母
さんと話してる後ろ姿って許せないってトコありませんか？

高倉 被害妄想じゃないの、それ。

明日香 でも、あたしには許せないってトコあつたんです。そんな人と一
緒にこらからの人生過ごすのかと思つたら、あたし、いてもたっ
てもいられなくなっちゃって…… (すすり泣く)

高倉 おいおい。

明日香 彼のアパートに部屋に行った時もヘンだと思ったんです。

高倉 何が？

明日香 妙にきれいなんです。

高倉 (なげやりに) ほ。

明日香 ちゃんと聞いてますか？

高倉 聞いてるよ。

明日香 彼、ふだんズボラって言うか、平気でおなじパンツ三日もはいてるような人なんです。

高倉 そりゃ木齋だ。

明日香 そんな彼の部屋がなぜきれいだか、わかります？

高倉 ……？

明日香 お母さんが掃除しに来ているらしいんです。

高倉 へえ。

明日香 変じゃありません、木の男の部屋にお母さんが掃除に来てるなんて。
七。

高倉 まあ、ねえ。

明日香 時々、彼ンとこに行つてゴハン作つてあげたんです。今まで、おいしいおいしいって食べてたくせに、結婚が決まると、急にお袋の味はあ。だこ。だ言い出して。こり見えても、あたし口ルキヤベツだけは申信ああります。前付き合つていた彼なんか、それはおいしいおいしいって。

Bits
7

高倉 神山サンだつて。

明日香 はい。

高倉 別に僕はマザコンがどうとか言つつもりはないけれど、でもさ、男には多かれ少なかれさういふトコがあるんじゃないかな。

明日香 そりゃトコつてなんですか？

高倉 つまり、そりゃトコだよ。

明田香—— 朱礼ですけど。

高倉—— 何？

明田香—— あなたもマザコンですか？

高倉—— 何で僕がマザコンなの？

明田香—— 彼のこと妙に弁護するから。

高倉—— **これは、彼を弁護して**るわけじゃないけどよ。ただーベッド買う

のをお母さんに相談したり。部屋を掃除してもらったりしてたらって、彼のことマザコンだって決めつけるのはどうかなって…

…。

明日香—— 今お話したことは、氷山の一角ですッ…。

高倉—— よーし、わかった、もう弁護しない。そいつは正真正銘、根っか

らのマザコン野郎だ。これでいいだろうッ。

明田香—— まあ……。

高倉—— それはよくわかった。わかったけどさ、だからって何もさきに隠れてなくたっていいわけだち。

Bits
8

明田香—— 隣の部屋、鍵かかって、その隣りの部屋にやぐざが……。

高倉—— そりじゃなくッ、要するにここから逃げればいいわけだろ。

明日香—— どこに？

高倉—— どこだっていいよ。このホテルから逃げればいいわけだろ。

明日香—— 今ッこの格好でここから脱走するのは危険です。

高倉—— 着替えりゃいいじゃないの。

明田香—— 着替えは控室です。たとえるなら敵陣裏つただ中です。地雷のり
まっただ荒野を彷徨い歩くよりなもの。

高倉—— たとえるなよ。何言ってるんだ、あんな。

明日香—— じゃ、取って来てください、あなたが。

高倉—— 何を。

明日香 着替えです。この下の階の新婦控室にあります。ドージュのダ
ルネソです。

高倉 馬鹿言ってるんじゃないよ。何で俺がそんなこと……。

明日香 じゃあ、ここに置いて下さいッ。

高倉 ……信じられないよ。いったいこれはどういうことなの。

明日香 邪魔はしません。何かやることがあるなら、あたしに構わずやっ
て下さい。あたし、隅っこでじっとしてますから。

高倉 人が来るって言ったろ。

明日香 じゃあ、ベッドルームにいます。じっと動かずに黙ってます。

高倉 彼女がベッドルーム開けたらどうする？ バスローブ着た女がベ
ッドでジツとしてたら誤解して下さいって言うてるようなもん
じゃないか。

Bits 9

明日香 来るの女の人ですか？

高倉 ……。

明日香 結婚してるんですよね？

高倉 ……。

明日香 だから……。

高倉 だからって何だよ。

明日香 それ（指輪）はずそうとしてるから。

高倉 ……。

明日香 いえ。別にあたしは、あなたが真つ昼間からここに女を連れ込も
うとしても全然かまいません。でも、そういうことなら、少し
くらいあたしをここに置いていてくれてもバチは当たらないんじ
やないかって……。

高倉 女房だよ。

明日香 え。

高倉——これからここに来るのは僕の女房なんだよ。

明田香——奥さんや。

高倉——ああ。

明田香——ホントにや。

高倉——ホントだよ。

明田香——(高倉お怪訝そうに見て)嘘や。

高倉——なんで僕が君に嘘をつかなきゃいけないの。

明日香——それ、結婚指輪ですよ。

高倉——まあ。

明日香——奥さんが来るのになんでそれ外すんですか？

高倉——あんたには関係ないことだよ。

明田香——そういうことならそういうことでいいんです。あたし、見たこと
は誰にも言いませんから。

Bits
10

高倉——花嫁サン。

明田香——ハイ。

高倉——一時闇で言つたよね。

明田香——え。

高倉——式が始まるまで。

明田香——ええ、そうです。

高倉——待つてゐるよ、みんな。親戚とか、友達とかみんなあつまつてゐ
てしょ。

明田香——。。。。。

高倉——君の幸せを祈り、今日この場に集まった人たちに申し訳ないとは
思わないや。

明田香——..... 思います。

高倉——でしよや。どっちなのや。

明田香——何がですか？

高倉——式場だよ。ここには二つあだちり。

明田香——三つです。

高倉——僕らがやった時は二つだったけどな。

明田香——えっ。

高倉——。

明田香——ここで結婚式挙げたんですか？

高倉——ああ。

明田香——じゃ先輩ってわけですね。

高倉——シなことはどでもいいんだよ。じゃなくてだな。

ボーイがドアをノックする。

Bits
11

明日香——！

高倉——（とぼけて）あれ、誰かなア。

明日香——……。

再びノックの音。

高倉——ハイイ、今開けます。（ドアに向かって）どなたですか？

ボーイ——ボーイでございます。

高倉——ボーイさんだって。

明日香——あたし、ここに居ませんから。

高倉——そんなことを言われたってなア。（開けようとする）

明田香——もしー

高倉——何？

明日香——もし、あたしのことバラしたら考えがりますから。

高倉 何、考えて？

明日香 あなたがあたしを誘拐したって言いますから。

高倉 え？

明日香 あなたが嫌がもあたしを無理やり拉致して、ドレス脱がしたって
言いますから。

高倉 そんな……。

ノックの音。

明日香、ソファの陰に隠れる。

高倉、もくろみと違う展開に戸惑いながらドアを開ける。

Bits
12

ボーイ ご用を承^{うけたまわ}つて参りました。

高倉 あ、あの……。

ボーイ 何でしょうか？

高倉 ちょっと、その、飲み物が欲しくてね。

ボーイ 何をお持ちしましょうか？

高倉 えと、シャンペンあるかな。

ボーイ シャンペンでございますね。

高倉 そり、シャンペン。

ボーイ グラスはいくつお持ちしましょう。

高倉 えと、二つ。

ボーイ それだけでよろしいですか？

高倉 ええ、それだけです。

ボーイ かしこまりました。(行くこうとする)

高倉 あの！

ボーイ ……何か？

高倉 世の中というものは。

ボーイ——ええ。

高倉——不可解なもんだよね。

ボーイ——はあ？

高倉——いや、いいんだ。よろしく。

ボーイ——（不思議そうに一礼して去る）

高倉——……。

Bits
13

明日香、姿を現す。

高倉——どーいうつもりなの、エツ!? 脅迫じゃないか、そんな誘拐だな

んて。

明日香——だって……。

高倉——だって何だ。君は僕に何か恨みでもあるのか!

高倉、イライラと部屋を歩き回る。

明日香——ここにぞ。

高倉——……。

明日香——ここで結婚式挙げたんですか?

高倉——（なげやりに）挙げちゃ悪いか。

明日香——何年前に?

高倉——三年前?

明日香——鳳凰ほうおうの聞き。

高倉——その隣り。

明日香——芙蓉ふきよの聞き。

高倉——ああ。

明日香——安い方ですね。

高倉——（睨む）

明田香……………へえ、そりなんですか。

高倉……………。

明田香……………にもかかわらず盛間から。

高倉……………神山サンだっけ。

明田香……………ハイ。

高倉……………あんたはそういう人の迷惑を考えない行動をとって恥ずかしくないのか。

明田香……………。

高倉……………あんたがあくまでここに居すわるといふなら、こつちにも考えがあらね。

明田香……………どうすあつて言ひんのですか。

高倉……………仕方ない。刀づくでもあなたをここから放り出す。

明田香……………。

高倉……………ね、そりなる前に頼みから出てくれない。まあ、ドレス着て。

明田香……………空手出来ますね。

高倉……………え。

明田香……………空手やる人でしょ、あなた。

高倉……………やらないよ、空手何て。

明田香……………嘘。

高倉……………嘘じゃないよ。何で僕が空手すまもの。

明田香……………そりいり顔つきしてモソ。

高倉……………モソの。朱礼なソ、顔つきで勝手に決めない。

明田香……………あだし、身体弱いんです。見て下さい、この細い腕。こんな女に乱暴しないで下さい。

高倉……………したかないよ。こつちだつて。ただ、こつちの迷惑も考えて。

明田香……………あたしだつて、何も好き好んでこんなところにいむわけじゃないんです。

高倉……………もち(溜め息)

聞。

Bits
14

明田香——一つ聞いていいいいですか？

高倉——ダメ。

明田香——。

高倉——何？

明田香——いえ、いいんです。

高倉——何だよ。

明田香——旅行ですか？

高倉——出張の帰り。

明田香——ああ……で、久しぶりに愛人に会い、と。

高倉——そんなに僕に不倫させたいの。

明田香——だって……。

高倉——だって何？。

明田香——それ（指輪）……。

高倉——これ外そうとすると、何が何でも不倫しなまわいけないの。

明田香——そういうわけじゃないけど。

高倉、明日香を見つめる。

明日香——何ですか？

高倉——実はね。

明日香——ええ。

高倉——今日は僕らの結婚記念日なんだ。

明日香——えッ。

高倉——三年前の今日、ここで式を挙げた。式の後、この703号室に泊

まってるね。この部屋はほくらにとって思い出の場所なんだ。

明日香 ……。

高倉 あいつ、二次会で飲み過ぎて、階段から転げ落ちちゃって……
（頭）に瘤こぶ作っちゃって、大騒おどろぎしたわけだよ。

明日香 ……。

高倉 結婚当時は金がなくて、買った奴は安もんでな。今日、新しいの
プレゼントしようと思って。びっくりさせてやろうと思ったわけ
サ。

明日香 ……。

高倉 そんな大事な田なんだ、令田は。

明日香 ……。

高倉 あんたにとって令田は大切な田であらうに、僕にもとって木
切な田なんだ、令田は。

間。

明日香 ごめんなさい……勝手なことって。幸せ何ですね。

高倉 ……ああ。

間。

Bits
15

明日香 一つ、先輩として聞かせて下さい。

高倉 何？

明日香 結婚っていいもんですか？

高倉 ……。

明日香 相手の欠点がどーしようもなく気になっても、それでも結婚って
いいもんですか？

高倉 ……。

明日香 どうですか？

高倉 欠点は誰だってあるサ。でも、良いところもある。マザコンの彼
だって、そうだろう？

明日香 ……。

高倉 克服しままや。

間。

明日香 ……わかりました。出て行きます。

高倉 (ホツとして)

明日香 でも。

高倉 でも何？

明日香 出てく前に一つだけお願いがあります。

高倉 何？

明日香 電話一本かけさせて下さい。

高倉 電話？

明日香 ええ。いいですか？

高倉 いいよ。

明日香、電話をかける。

Bits
16

明日香 もしもし、新郎控え室お願いします。

高倉 ？

明日香 もしもし、控室ですか？ 田代サン、お願いします。田代信彦サ
ン。これから鳳凰の間ほうおうで式挙げる予定の……。

高倉 ……。

明日香 信彦さん？ あたしです。明日香。……いいから聞いて、あたし
がなぜこんなことしてるか、その理由はわかるわよね。このまま
勢いで結婚しても、ダメになるって思っちゃったの。でも、あな
たがこれに懲りて、「これからは、いちいちお母さんのこと気に
しないで何でもやってく」って誓ってくれるなら、これからそっ
ちに行くわ。どう、誓ってくれる？ ……え、今ホテルの部屋に
居るわ。どこかは言えないけど。一人じゃないわ……違うわよ。
だから違うって……そんなに怒鳴らないでよ……出せるわよ（高
倉を見る）

高倉 どうしたの？

明日香 出るって。

高倉 え？ 俺が出てどーすんの？

明日香 あたしの昔の恋人と間違えてるみたいで。

高倉 そんな。

明日香 ちがうって言って下さい。あの人嫉妬深いから……。

高倉 （ためらう）

明日香 言うだけでいいんです。違うって。

高倉 （出て）もしもし、違います（とすぐに明日香に受話器を渡す）

明日香 ちゃんと行ってください！

高倉 なんで僕がこんなことしなきゃいけないの？

明日香 誤解してるんです。お願い！

Bits
17

高倉、仕方なく電話に出る。

高倉 もしもし、お電話代わりました。はじめまして。わたしは、ホン
トにそんなんじゃないんですから。……誰って言われても……サ
ラリーマンです、ごく普通の……タワシの「丸勝」^{まるかつ}ってご存知で
すか？ 知らない……そこに勤めています。タワシですよ、タワ

シ……風呂場なんかでゴシゴシこする奴……わたしが作ってるわけじゃないです。作るのは機会です……ちがいますよ、池ノ谷いけのたにじゃありません。わたし高倉です、高倉健作……高倉健とは何の関係もありません……声色何てつかってないですよ……似てるとおっしゃられても……わたしな高倉健作です。奥さんはこれから、そちらに行くように言いますから……何もしてませんよ！ 部屋番号？ ダメですよ。あなたラクビーやってるんですよ。あなたのタックルまともに受ける体力僕にはないですから。ハハハ……彼女からきいたんですよ、ラクビーやってたって。

明日香 誓うかどうか聞いて……。

高倉 何ツ？

明日香 さっき言ったコト誓うかどうか。

高倉 あの、いいですか、落ち着いて下さいよ。花嫁さんが「さっき言ったコト誓うかどうか」と、言ってますが……ちょっと待って下さい。(明日香に)「さっき言ったコトって何だ」って……。

明日香 何聞いてんのよッ、お母さんをいちいち持ちだすことやめるかどうか……。

高倉、ふと自分が仲介して会話をしていることに疑問を感じる。

高倉 自分で言えよッ。

明日香 あなたが真ん中に入ってくれた方がいいの、喧嘩になっちゃうから。

高倉 なんてお人よしなんだよ、俺は……もしもし……。

高倉、相手の声を聞いて慄然とする。

明日香 どうしたの？

高倉 お母さんが出てきちゃった。

明日香 ……。

高倉 出てよ、これ。

明日香 すぐこれなのよ、あの人は。

高倉 ねえッ。

明日香 嫌ですッ、あたしは信彦サンを話ししたいんです。

高倉 ちよつと。そんなこと言われたって……。

明日香、電話から逃げてしまう。

高倉 (意を決して) もしもし。ドーも。……ですから私は高倉です。

だから「丸勝」の社員です、タワシの。え？ そんな拉致なんて

とんでもない。お嬢さんの方が勝手にここに。……馬鹿な真似は

よして下さい。警笛が出てるような問題じゃないんですから。

――ええ、ですから僕には関係ないですよ。落ち着いて聞いて下さ

い。いいですか……。ですから……！ そんなあなた。やめて

下さい。そんなことしちゃう。(切る) ……(明日香に) 警察に

電話してる！

明日香 これでわかったでしょう、マザコン男の主体が。

高倉、頭を抱えてうずくまる。

Bits
18

明日香 ……どうしたの？

高倉 誘拐事件になっちゃった。

明日香 エッ

高倉 僕が君を誘拐した事になったみたい。

明日香 ……そんな。

高倉――。

明日香 でも、大丈夫よ。あたしがここに居ることまだバレてないもの。

高倉 そういう問題じゃないッ！

明日香 ……。

高倉 どんな人？

明日香 え。

高倉 彼のお母さん。

明日香―― どんな人って……お花の先生してて、ちよつと冷たい感じだ。

高倉 警察なんか平気で呼んじゃうような人？

明日香 まあ、息子のためなら何でもしちゃうって言うか。

高倉 ……。

高倉、寢室へ言つてウエディング・ドレスを持って来る。

高倉 さア、これ持つて。

高倉、明日香の手を取つて、部屋から外に出そうとする。

明日香 何するんですか？

高倉 出てつてよ、約束じゃないか。

明日香 こんな恰好じゃ……。

高倉 グズグズしてたら警察来ちゃうよ。

明日香―― そんなあわてなくても――

高倉―― 電話しちやつてあかもしれないだろ。そんな騒ぎに巻き込まれるのぞめんだよ。

明日香 事情を説明すればわかってくれますよ。

高倉 人を脅迫しといつてもつともなこと言うなよ。

明日香 さっきのことは謝ります。脅迫なんてもうしてません。

高倉 信じられるか。あんた、要するに時間かせぎして結婚式出来ないようにしたいんだろ。さア、出てっつくれ。(と明日香を引っ張る)

明日香 痛いッ。そんな乱暴しないで下さい。

高倉 いいから、こっちに。

明日香 放して、放して下さいッ！

高倉 (放さない)

明日香 誰か、誰か助けてッ！

高倉 あ、馬鹿ッ。何て事言うんだ！~~と、明日香の口を塞ぐ~~

二人もみ合う。

明日香 んん んん んんッ。

ノックの音。

二人、ハッとする。

Bits
19

明日香 警官？

高倉 しッ！

高倉、明日香を促して隠れさせる。

明日香、ウエディング・ドレスを隠す。

高倉 (ドアのところまで行って) どなた？

ボーイ ボーイです。シャンペンをお持ちしました。

明日香 (ホッとする)

高倉 いいか、君は僕の女房だ。いいね。

明日香 ……？

高倉 いいねッ。

明日香 (うなづく)

高倉 (ドアを開けようとする)

明日香 ちよっと！

高倉 何？

明日香 奥さんの名前は？

高倉 美土里。みどり

明日香 ……どうぞ。

高倉 (ドアを開ける)

ボーイ お待たせいたしました。

ボーイ、部屋に入って来る。

ボーイの持つお盆の上に、氷の入った容器にシャンペンと

グラスが二つ。

明日香、とぼけてソファに座っている。

ボーイ 失礼します。

高倉 妻だ。

明日香 (鷹揚に会釈して) ご苦労様。

ボーイ、シャンペンの栓を抜く。

ボーイ お注ぎしますか？

高倉 いや、いい。どうもありがとう。

ボーイ どういたしまして。

高倉 ところで、君。

ボーイ——ハイ

高倉 いや……その、ナンだ。

ボーイ 人生の不可解についてですか？

高倉 そうじゃなくて、そのアレだ……何か変わったコトないかい？

ボーイ 変わったコトですか？

高倉 ああ。

ボーイ (考えて) ……。

高倉 うん？

ボーイ 今朝。

高倉 ああ。

ボーイ うちで飼っている猫が子供を産うみました。

高倉 ……ハハハハ。

ボーイ ……ハハハハ。

高倉 もういい。ご苦労サン。

ボーイ——はあ。

奇妙な間。

高倉 妻だ。

明日香 美土里です。ご苦労様。

ボーイ、一礼して部屋から出て、再び首をかしげて去る。

高倉、ドアの鍵をかける。

高倉、グラスにシャンペンを注ぐ。

高倉 (飲む)

明日香——。

高倉 警察が来たらちゃんと証言してもらおうからね。

明日香 ……。
高倉 いいねッ？
明日香 (うなづく)

Bits
20

高倉、明日香にシャンパンを勧めろ。

明日香、グラスを受け取って一口飲む。

明日香 奥さん、こないですね。美土里サン。
高倉 ……。

明日香 (飲む)

高倉 来ないかもしれない。

明日香 え？

高倉 あまり楽しい話じゃないんだ。

明日香 ……。

高倉 こじれててね、ここんとこずっと。

明日香 ……？

高倉 しかし、やっと結論が出た。

明日香 ？

高倉 ハンコ押した紙持ってここに来るんだ。

明日香 ハンコ？

高倉 離婚届け。

明日香 ……。

高倉 最後は二人が結婚したこのホテルで会おうってね。

明日香 ……。

高倉 そこへあんたがやって来た。

明日香 ゴメンナサイ。あたし、そんなこととは……。

間。

高倉 池ノ谷って言うの？

明日香 え？

高倉 昔の恋人。

明日香 (うなづく)

高倉 彼にまだ未練あるの？

明日香 ……。

高倉 だったら、結婚なんてやめた方がいいな。

明日香 なぜ？

高倉 僕らの二の舞を踏むかもしれない。

明日香 僕ら？

高倉 ……。

明日香 奥さん、昔の恋人と？

高倉 ああ。今はそいつと一緒に住んでるらしい。

明日香 ……。

高倉 もっとも、そんなことになった原因は僕にもある。

明日香 ……。

高倉 僕はヤザコンじゃないつもりだけど、今思えばいっぱい欠点があった。

明日香 ……。

高倉 何より、あいつが感じれる寂しさに鈍感だった。

明日香 ……。

高倉 でも、もう後戻りは出来ない。

明日香 ……。

高倉 (笑顔で) くやしいけどね。

明日香 ……。

高倉 いい奴じゃないか、ダンナ。

明日香 え？

高倉 すごい剣幕で怒ってたよ。「オレの女房に何かしたか！」って。

明日香 ……。

高倉 僕は、女房にあんな本気になって怒れなかったア。

明日香 ……。

高倉 あいつにしたら、そういうコトがたまらなくなっただと思う。

明日香 ……。

高倉 あんなに情熱的になってくれる人がいるってことは、素晴らしいことじゃないかな。

明日香 ……。

高倉 ちよつとオツチヨコチヨイなどところがあるけどな。

明日香 (笑顔になる)

高倉 しかし。

明日香 ……。

高倉 しかし、うまくいかんもんだなア、まったく。(笑顔)

明日香 ……。

高倉 結婚もくぜん前まへの君にこんなこと言っちゃ縁起悪いか。ハハ。

明日香 いえ。

明日香、ウエディング・ドレスを手に取る。

明日香 ……行きます。

明日香、着替えに寝室へ去ろうとする。

電話が鳴る。

高倉、明日香、ドッキと顔を見合わせる。

高倉、受話器を取る。

高倉 (警官かもしれないという恐れがあつて) ハイ……ああ。(明日香に「大丈夫」という合図)

明日香、寢室へ去る。

高倉 今どこ? ……そう。いや、僕ちよつと前に着いたトコだから。ああ、名古屋から新幹線で……そう、703号室。……予約していたよ、レストランも。……まあ、ね。君も元気そうじゃないか。……え?(笑つて)。

明日香、来る。

高倉の視界にウエディング・ドレス姿の明日香が入る。

高倉 ……いや、どうもしないよ……。とにかく待つてるから。階段で転ばないように注意して来て下さいね。……酔つてなくてもお前、いや君はよく転じゃない。(涙が溢れて来る) ……ええ、いや、花粉症。昔と体質が変わつたみたい。ハハ。君、木更じゃないか、この時期。……そう、七階。十番右のエレベーターに乗ると通過しちゃうからな……ああ、じゃ待つてるから。

明日香、ファスナーを上げようとするがうまくいかない。

高倉、見かねて手伝う。

高倉 (ふと鏡の中の明日香を見つめてしまう)

明日香 (その視線に気づく)

明日香、元通りの花嫁姿になる。

高倉 完成。

明日香 ……。

高倉 ……。

明日香 …… (頭を下げる)

高倉 何か、娘を嫁に出すお父さんになったみだいだ。

明日香 お父さんにしちやちよつと若すぎるよ。〈大地用〉

高倉 だな。

明日香 でも、ありがとう…一度こういう風にやってみたかったの。

高倉 やらなかったの、お父さんに？

明日香 あたし、父いないから。

高倉 ……そう。

明日香、ドアの前に立ちすくむ。

明日香 この先に……。

高倉 ……。

明日香 この先に幸せはあるのかな？

高倉 行ってみればわかる。

明日香 ……。

高倉 まず、行ってみなきゃ。

明日香 (高倉に振り向く)

高倉 後は根性。

明日香 (大きくうなづく)

明日香、大きく一歩踏み出す。

ウエディング・マーチが聞こえる。

高倉、指輪を外そうとするがなかなか抜けない。

完 2019. 11. 23. sat

Cut 版 2020. 1. 18. sat